

「菊水鉢 水指」 胴掛けや唐破風の屋根、菊慈童の人形など、そっくり菊水鉢を写した水指で、多様な技を駆使した作品。車輪、土台、胴体、屋根に分かれ、屋根を外すと内蓋があり、胴体に水を入れます。祇園祭に毎年開かれる菊水鉢の茶会用に茶人からの注文で創作しました。

「七宝透かし陶枕」 陶磁器製の枕「陶枕」は、磁器の冷たい素材感が夏場の昼寝用枕として重宝されます。全体に網目のような七宝透かしをほどこし、涼しげな朝顔が添い、内側には川面に佇む川蝉をあしらうなど、種々の技法を駆使し、意匠と趣向にも細やかな配慮が行き渡る作品を目指しました。



宗村 太郎

1975年東京都小金井市出身。1995年愛知県立瀬戸窯業高等学校専攻科修了。同年京都府宇治市炭山で丹山窯を開く・小峠葛芳氏に師事し、茶陶の制作に携る。2002年京都府立陶工高等技術専門学校研究科修了。2007年「京もの認定工芸士」認定。現在、小峠葛芳氏に師事して茶陶の制作に携わる。

Eメール otama-taro1975-1121@docomo.ne.jp

◆京もの認定工芸士とは…
京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術を有した意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。

瀬戸窯業高等学校専攻科を修了後、京都へ。宇治炭山で丹山窯を開く小峠葛芳氏に師事し、主に茶の湯のための器「茶陶」制作に携わっています。焼めめの丹波焼や備前焼、赤絵の有田焼といった特徴がないからこそ、自由で多様な創作ができる京焼・清水焼。その魅力と奥深さに惹かれ、京都の風土や文化にも触れ日々学んでいます。茶席に用いられる陶磁器は、茶碗、水指、建水、蓋置、香合と多岐にわたり、用と美を備えていなければならないのですが、その規制の中で作風の確立に精進しています。

京焼・清水焼の多様性と 奥深さに惹かれて

京もの認定工芸士 第7号

宗村 太郎
むねむら たろう

